

# 「令和」新时代を明るく豊かなものとする 安全で活力のある国づくり!!



## 超高齢化・人口減少の静かな 有事における活性化戦略

急速な高齢化とともに全国では年間約40万人も人口が減少し、大都市集中の流れがいまだに続いており、経済の縮小と著しい生産年齢人口の減少が地方の後退にもつながっている。

対応策として、ワークライフバランスを考慮した、若者からシニア、そして女性までの国内人材が力を発揮できるような、社会保障制度の充実を図り、気概を持って働く環境づくりを進めている。

第四次産業革命と言われる、ICTの活用によるAIやロボット、自動運転などの先端技術により人々が厳しい労働から解放され、かつて空想したような科学技術の恩恵が享受できる利便性の高い社会の実現を目指している。

それらは人材不足を補い生産性向上にもつながるが、そのような時代が到来する過渡的な段階において、著しく人材が不足する分野については、規律ある外国人材の導入により凌がなければならない。

定住人口が減少するなかにあっても、交流人口の増加による活性化が可能であり、特に外国人観光客の増加による経済効果が期待される。そのための魅力づくりとしての地方創生を積極的に推進する。

## 防災・減災、国土強靭化による 安心・安全の国づくり

平成は戦争に巻き込まれることのない平和な時代であったと評される。他方で自然の猛威の厳しさを見せつけられた時代であった。

戦争は外交によって阻止することが不可能ではないが、大規模自然災害は最後通牒もなしに突然襲いかかり、国家を脅かすものとしてこれほど恐ろしいものはない。平成における豪雨や台風、地震などの大規模自然災害の頻発をみると、予期できないものではなく必ずやってくると考えなければならず、これに備えるのが政治・行政の最も基本的で重要な課題である。

そのような背景にあって、防災・減災、国土強靭化のための3か年緊急対策が実施され、約7兆円をかけて安全策を講じようとしており、この政策について、予算委員会の国土交通分科会で石井啓一大臣に質したところである。

かつて、我が国が深刻な公害問題を克服して経済成長を成し遂げたように、災害対策においても確固たる技術の構築をしなければならない。一級建築士として、新時代に最も重要な国の安全確保のために積極的に取組みたい。

衆議院議員

田所嘉徳



□ 茨城県メディア

人生100年時代の健康管理拠点となる、  
茨城県メディカルセンター人間ドック棟が竣工

